令和3年度　朝霞市学校評価　　令和4年3月7日

学校評価（共通項目）評価書

朝霞市立朝霞第二中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	めざす学校像「一人一人が輝く 活気と潤いのある学校」の具現化として、校長の経営方針の下、目標を連鎖させて、教科指導、学級・学年経営、校務分掌等、全教職員で組織的に取り組んだ。特色ある活動として「栽培活動」に取り組んでいる。全校生徒による落ち葉拾い、委員会活動による学級花壇整備、保護者協力によるPTA花壇整備、除草作業等、通年で実施した。また毎週、各種委員会（運営、生徒指導、教育相談）を行い、情報連携から、各分掌、担当教諭が共通理解の下、組織として機能するよう運営している。	A	令和3年度の学校経営方針をもとに、各職員が情報共有し、89%の保護者も評価しているように生徒の教育力の向上を図っていた。学校便り等の手紙から、学校と職員の取り組みが良く伝わる。校長先生の適切な指導のもと、教職員が一体となった学校経営に取組んでおり、しっかりとした目標を立て、時代に合った体制を強化している点が評価できる。さらに、こども達に”考え””行動”させる教育に力を入れていただきたいと思う。コロナ禍により、報告や資料を拝見している限りでしかないが、鋭意努力されているのではないかと感じている。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。（※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む）	B	校内研修にて、心肺蘇生法、エピペン等アレルギー対応の研修を実施した。避難訓練は、地震、火災、浸水を想定した訓練を行い、火災を想定した訓練では消防署員と通報訓練を取り入れた。日常の点検、定期点検を実施、危機管理マニュアルの配付、保護者連携の通学路点検、メールによる不審者情報配信を実施した。いじめ根絶の取組として、心と生活アンケート、いじめ撲滅サミット、オレンジリボンキャンペーン、人権学習、教育相談週間、生徒指導対応教諭を核とした教育相談体制の構築を実践した。	A	保護者の96.2%は危機管理体制においても積極的に取組んでいると捉えている。チームとしてフットワークのよさが見受けられ、いじめを許さない環境作りも充分見られる。この問題は継続的な取組が重要で、日々課題が積まれている。今後も都度先手の対応をお願いしたい。 コロナ対応に注力している中ではあるが、このような時こそ、生徒のケアが大切である。今後いじめ防止に関する状況や設備面における改善は、今後も継続的に取り組んでもらいたい。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	埼玉県学力・学習状況調査では1年（国数）、2，3年（国数英）すべてで県平均を上回った。また、全国学力・学習状況調査では、3年（国数）いずれも県平均、全国平均を上回った。調査結果の分析から、生徒全体としては基礎的・基本的な知識の定着が進んでいる。引き続き一人一人の生徒の支援や個別最適化した学習の在り方について着目し、授業力向上のための研修を引き続き行っていく。	A	教職員、保護者の皆様の不断の努力の成果で、学校として大変誇らしい。コロナにより、積極的に始まったICTの効果的な取組と、先生方の努力に感謝する。学力調査の指標では、埼玉県平均を上回り基礎学力は身についており、大変良い成績状況であった。82.6%の保護者は、教職員の指導により基礎学力を身に付けていると評価している。 在籍生徒が多数いる中、またコロナ禍における今までの教育活動に制限がある中、工夫を凝らしていると感じる。一方でタブレットやそれに伴うアプリなど、ツールは揃っているが、これらのツールが習熟力向上となっているのか効果の検証を行っていくことが必要だと思う。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	数学の少人数指導やT.T等、個に応じた指導の充実に取り組んでいる。主体的、対話的で深い学びの実践を主題とし、授業改善を推進している。特にGIGAスクール構想に伴い、一人一人に配布されたタブレット端末を利用した授業実践では、各教科における活用方法の模索や教科を超えて研修を行い、他教科における活用方法の実践が共有され、活かされている。引き続きICTの効果的な活用を研修していく。また質問教室の実施、学習カードや評価カードの活用など、個々の学びを支援できるよう工夫している。また生徒アンケート「授業はわかりやすい」は96.1%、保護者アンケート「生徒の実態に基づいた授業をしている」は78.8%であり、今後の改善に関する意見が見られた。	A	「児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている」という表現は一見”生徒個々の能力に応じて授業を進める”と捉えられる。そうなると対応の限界があるので、厳しめの評価となるのではないか。また、コロナ禍においても新しい学習方法を研究し、実践されている。また、各教科の授業改善プランを作成し、着実に学力向上に努力している。このような姿勢は、生徒に伝わり、今後さらに大きな成果として表われることと思われる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	生徒が主体となる取組を推進している。朝のあいさつ運動、黙動清掃、授業評価オ、行事前の〇日間チャレンジ、完全下校時刻を守る取組、各種委員会のキャンペーン等により、学校生活の変化を作り、達成感や成就感が高める実践をしている。生徒アンケートからは「校則などの生活のきまりを守る」94.3%、保護者アンケート「生活ルールや規律ある態度が身に付いている」89.4%となっている。	A	生徒は、周囲の生徒や学校生活に無関心でないために、生徒の集団への自己評価は低めに表われていると思われるが、学校内では落ち着いて生活ができている。しかし登下校時に話に夢中になっている様子もあり、交通量の多いところでは危険であり、注意を促したい。毎回学校を訪問する時に感じるのが、未知な訪問者に対し元気な挨拶と礼儀正しさで、89.4%の保護者は規律ある態度が身についていると捉えている。これは日常の指導の成果と思われる。 学校内での活動が外部に中々理解しきれない現状況において、自己評価での好感触は良いと思われる。しかし、思春期真っ只中の生徒たちが共同生活を送っている中、不登校生徒などに対して、どこまでサポートしきれるのか、サポートしなければならないのか、注視していかなければならないと考える。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	毎週、各委員会・部会（運営、生徒指導、教育相談）を行い、生徒の実態について情報共有し、把握に努めている。組織的な指導の手立てと進捗を確認し、必要に応じて対策を講じる。毎月生徒指導委員会を開催し、月ごとに生徒で組織する委員会の活動計画、活動報告を行い、委員会活動の活性化を通して意図的な主体性を養う活動を促している。また、生徒アンケートから「校則などの生活のきまりを守る」94.3%、同様に「あなたの所属学年が校則などの生活のきまりを守る」は81.6%となっている。さらに校則の見直しについて、生徒会役員との意見交換を行い、自主・自律の醸成を行う。毎月の重点目標を校内各所に掲示し、意識高揚を図るとともに、委員会活動を連鎖させ、具体的な改善行動に結びつけている。	B	生徒の登下校の様子を見る限り、とても礼儀正しく、学校の思いが生徒に伝わっているのではないかと思う。また、生徒が先生と一緒に作る校則に期待している。委員会活動等に自主的に参加し、人として当たり前の生活環境を形成するために努力している。昨年の黒目川清掃を見て、しっかり自分たちの役割を考えて行動できていると感じた。また、保護者アンケートでは89.9%が生徒の規律ある態度を育成する取組をしていると捉えている。勤労学習やボランティア活動を推進させてもらいたい。

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	体育委員会の活動として昼休みに体育館を開放し、体を動かす機会を確保している。グランドでは、上級生、下級生に関わらず多くの生徒が外に出て体を動かしている。また部活動について生徒アンケートからは「部活動は楽しくやりがいがある」91.9%の回答がある運動部活動は、目的意識を持ち熱心に活動に取り組んでいる。保護者アンケートでは「体育の授業や運動部活動等の運動に意欲的に取り組んでいる」96.2%の回答が得られている。	A	少ない時間の中で、活動するのは大変だと思うが、楽しく活動できていることは良いことだと思う。また、コロナ禍において、生徒たちは多々制約ある中でも、出来る範囲での活動により、また十分な指導も難しいにもかかわらず、全国大会や関東大会に出場し、好成績を残し、意欲的に取り組めるエポックになっている。 グランドで動き回る生徒の姿や学校便りの対外試合等の成績からは、活発な部活動指導が行われていると評価する。また、運動は得意・不得意がありますから、体育祭、球技大会、体育の授業ではなく、クラスでのレクリエーションなどコミュニケーションが大切だと思う。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	新体力テスト種目別記録の掲示や体力課題を意識した体育授業の改善など、生徒の意欲を喚起し体力向上に取り組んでいる。また、学生ボランティアや水泳指導ボランティアを受け入れ指導の充実を行った。また保健委員会の活動として、熱中症や感染防止対策の注意喚起、アウトメディアに関する取組等の啓発を行うなど、学校歯科医、衛生士と連携した歯科保健指導、助産師の方からの性に関する指導などを行った。	A	３年生の性教育は、大変学びの多い時間だったと感じた。来年以降も続けてもらいたいし、是非保護者も一緒に参加できるように開催を検討してもらいたいと思う。 また、83%の保護者は生徒の体力を高めるために意欲的な取組をしていると評価している。心身のバランスと両面からの指導について今後も期待したい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	保護者と教師の会各委員会やサポーターの取組など、生徒への直接的な支援や校内環境整備に尽力をいただいている。また職業体験学習に替わり、学校運営協議会委員の方からの紹介をいただき、地域の方のご協力をいただいて、職業調べ学習を実施することができた。また、学生ボランティア、ジャグリング、部活動外部指導者、の取組など、多岐にわたり地域の人材を導入している。保護者アンケートでは、「保護者や地域と連携して教育活動を行っている」83.9%であり、教育力向上の取組を推進する。	B	保護者の会や学校運営協議会と積極的に情報共有しようと試みている事が感じられる。特に協議会では、１年目であるため、今後の活動に期待したい。学校と連携し、「学校に来るのが楽しい」と応える生徒、笑顔の絶えない学校作りに協力したい。また、参集の制限がある中で、連携することの大変さや工夫していることについては理解をする。さらに何ができるか、どうすれば良いかを検討し続ける必要がある。 職業調べ学習では、運営協議会委員の協力により、専門職の方の講演会を実施することができた。一方で生徒の希望を優先した職種だけでなく、社会の基盤となる職業を学習させることも大切であると思う。 役員決め等係を決めるときの独特な雰囲気を和らげる努力を先生方にも一緒にして欲しい。どうしても強制的に捉えられてしまいがちで、活動に少しでも先生方に関わっていただけると、親の意識が変わると思います。 運営協議会の設置を急いだ行政が協議会に何をして欲しいのか、もう少し明確にプロンプトすべきだと感じている。また学校側も地域に対し、どこまで依頼をして良いのか、どんなことを依頼して良いのか躊躇する点が否めない中、設置を促した行政が旗を振り、行政側から地域に依頼をかけるなど、運営協議会に期待する行政が望む将来像を明示すべきではないかと感じている。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	保護者、教員による校外パトロールを2度実施し、通学路の危険箇所の点検、市への要望を行った。保護者アンケートでは「保護者や地域は学校と協力し合って安全指導や健全育成に取り組んでいる」82.2%であった。	A	地域とタッグを組んだ黒目川清掃等、運営協議会の発足により、さらに、連携も深まったと思われる。今後コロナが収束し、より広範な地域との協力体制が見込まれる。学校だよりを地域自治会に配付し、学校の取り組み等について発信している。また、学校内や登下校時における安全・健全育成も必要だが、昨今の習い事等におけるそれ以外の夜間帯をどのようにフォローしていくのか課題であると思う。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入
Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、 B:2.6以上、 C:2.0以上、 D:2.0未満